

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名 上砂川町

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	介護認定率を見ると、開始年度は減少(18→17.4%)したものの平成29年度より再び上昇(18.2%)。コロナ禍の影響もあり介護申請数がふえ、認定率は22.9%と上昇しており、連合管内では浦臼23.0%に次いで高い。通いの場、及び出て来られない方へのサービスにより要介護になることを防ぐ必要がある。	送迎付きの転倒予防教室「足若の日」を開催します。 (事業名:「足若の日」、「ふらっとヘルシー体操」)	年度末アンケートで体力を維持・改善している人の割合80%以上	足若の日:24回 実42人(延503人) ヘルシー体操:24回 65人(延955人) 緊急事態宣言下に中止した分を延期し、それぞれ年度当初予定していた24回を実施した。コロナ禍にもかかわらず、参加数は令和元年より増加している。令和2年度7月より会場変更に伴いバス送迎が開始されたことも影響していると考ええる。年度末アンケートは、2015 三井記念病院 整形外科「ロコモ5」を参照にしたオリジナル版を行い、1年前と比べ体力の変化を尋ねた結果、6問中5問で84~92%が維持・向上を感じていた。残りの1問でも77%には達しており、目標の8割を上回った。	◎	新型コロナウイルス感染症対策をしながらの実施となり、保健師マンパワー不足の中、臨時保健師や健康運動指導士の協力を得て実施している。通年で、送迎付きで行う事業として、十分な活用が図られ、効果も出ている。このまま継続実施する。
①自立支援・介護予防・重度化防止		身近な「地域集いの場」で、サポーターが中心となって、いきいき百歳体操を毎週開催します。	65歳以上の人口の1割以上の参加率	9団体で実施。参加率8.6%と1割には満たないが、国が目標に掲げている8%は越えている。	◎	百歳体操だけではなく、介護予防事業に参加している高齢者が8割以上を目指していきたい。(ますますカード参加率8割)
①自立支援・介護予防・重度化防止		リハビリ専門職等が、加齢や疾病による身体機能の低下を、タイムリーかつ集中的に回復に向けて支援します。	転倒不安感尺度かつ主観的健康観で、維持・改善している人の割合80%以上	ケースによって、柔軟に間隔や回数を設定し、利用者の92.9%が改善・維持となっている。 ココトレ 実施回数:21回 年度内実施者:37人 年度内終了者:14人 (単発~6人、次年度継続~17人) 評価:改善 11人 維持 2人 低下 1人(本人の意思で中断)	◎	効果的支援が行えていると考え、今後も継続実施する。
①自立支援・介護予防・重度化防止	ボランティア養成講座を修了し、ボランティア登録した人数に対して、従事しているボランティア数が低い	介護予防・認知症・生活支援ボランティア養成講座の実施により、就労活動のきっかけづくりを行います。	高齢者に占めるボランティア従事者割合6.6%	・サポーター養成講座(対象者:一般、小学6年生) ・活動の場の提供(運動教室、認知症カフェなど) ・ボランティアポイント制度の実施。ポイント管理(集約は社会福祉協議会) ・65歳以上高齢者数に占めるボランティア従事者割合5.7%であった ※活動者数/65歳以上高齢者数	○	コロナ禍でのボランティア従事は十分に実施することが困難であった。コロナ中での従事について検討。
①自立支援・介護予防・重度化防止	介護給付費の増加や介護度が重度化している現状がある	自立支援に資するケアマネジメント支援会議を定例開催します。 (75歳未満かつ事業対象者~要介護2)	自立支援型会議の実施割合100%	自立支援に資するケアマネジメント支援会議は、コロナの影響により、日程調整を行いながらも予定通り実施。	◎	医師や歯科医師の参加については当面困難なことから他の職種の充実を検討する。
①自立支援・介護予防・重度化防止	認知症に対する理解不足や認知症本人とその家族が地域において参加できる場所が少ない。	認知症の理解促進により、認知症の人と共生できる体制をつくります。 (「認知症カフェ」開催など)	平均参加数に占める認知症とその家族の参加30%	平均参加数に占める認知症とその家族の参加率は10%の結果であり数値目標には届かなかった。	△	コロナの影響により、認知症カフェの開催が中止となることも多々あり、サポーターの活動意欲が低迷している。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名 空知中部広域連合

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とするサービスを、事業者が適切に提供できるようにするため、北海道では「第5期介護給付適正化計画」を策定し、保険者と一体となって取り組む方針としており、当連合としても重点事項として位置付けられている5項目について実施していく。	認定調査状況の適正化	調査票全件点検の実施	調査票全件である1,343件の点検を実施し、テキストに基づき、不整合がないか確認し、整合性のある認定調査となるよう認定調査員への指導を行った。	◎	調査事項と特記事項の整合性が図られていない調査票が見受けられることから、今後も認定調査の平準化をはかるため、調査員に対する指導を継続していく。
②給付適正化		ケアプランの点検	隔年訪問実施	5事業所計15件について、自立支援に資する適切なケアプランであるか等に着目し、ケアプラン点検を行った。	◎	利用者の自立支援に資する適切なプランであるか等に着目し実施しており、今後も継続していく。
②給付適正化		住宅改修及び福祉用具購入の点検	申請書類の全件点検、必要に応じた現地確認の実施	住宅改修及び福祉用具購入の申請時に全件点検を行い、住宅改修については事後訪問調査を行った。	◎	不適切な改修の申請の場合は、申請者やケアマネージャーに制度を説明し理解を図っており、今後も継続していく。
②給付適正化		医療情報との突合及び縦覧点検	毎月点検実施	国保連合会に委託し、帳票をもとに点検実施した。	◎	国保連合会への委託と国保連合会帳票を使用した点検を実施しており、今後も継続していく。
②給付適正化		介護給付費通知	年1回以上の通知の実施	年1回(8月)に全件通知を行った。	◎	計画通り実施しており、今後も継続していく。
②給付適正化						